

<学校長より（令和7年12月）>

令和7年も終わります。令和8年が皆さんにとって良い年になるように、この年度末から信念に向けて、ゆっくりと自分と向き合ってほしいと思います。

【進路・部活動・選択の時期】

<3年生の皆さんへ>

就職先、進学先が決まり、ほっとしている人も多いことでしょう。このことは、高校での最終目標であったので、まずはその喜びに浸ることは大いに結構です。しかし、人生は100年と言われ、みなさんは人生の1/5程度が終わった、つまりこれからが社会に出るスタートラインについたところです。4月からに向けて、心身ともに充実した日々を送ってください。

<2年生の皆さんへ>

来年7月には、具体的な進路を決定しなければいけません。あつという間の半年間です。今のうちから進路について真剣に考えておきましょう。

<1年生の皆さんへ>

これからが本番といったところ。学業（検定合格）と部活動などあらゆることに挑戦する力強さをつける絶好の時期です。後悔することなく、全力で取り組みましょう。

【令和7年振り返って】

12月24日（水）に令和7年の締めくくりとして、集会で話をしました。壇上から皆さんの顔を見て、良い顔をしている人が多くいるなあと感じました。今年の体育祭、文化祭がとても印象に残っています。発表や競技をしている人に対して、応援をする姿。この瞬間は、土岐商の団結力を実感させられるものでした。皆さんのアンケート結果をみると、「学校行事に積極的に参加する」と肯定的な回答が95%近くあった。このことは、みんなで土岐商を良くしていこうというメッセージだと受け止めることができます。部活動でのひたむきなプレー、販売実習など多くの場面で、その姿をみることができました。また、授業の様子にも変化が見受けられます。みなさんが笑顔で楽しそうに授業に参加している姿が、多くなってきたように思います。やはり、「楽しく」するには、前向きさが必要だと感じさせてくれています。そんな中、世の中のことにもしっかりと目を向けてほしい。今回の集会の内容を以下に示しておきます。

① 12月24日 朝刊より

日本の一人当たりのGDP（国内総生産）が世界24位、昨年より2ランク下がったとありました。この原因についてとして、少子高齢化、慢性的な低成長、円安の進行などです。また、低成長の背景として、IT化の出遅れによる生産性の伸び悩みがあげられます。IT化（インフォ

メーション・テクノロジー）は、情報技術の活用により、業務の効率化を目的としています。日本企業はこのIT化で遅れをとったということです。

② DXとは？

「DX」という言葉を聞いたことがある人は多いと思います。しかし、説明できる人はどれくらいいるでしょうか？「DX」とは、IT技術やビッグデータなどのデジタル技術を活用し、業務プロセスや事業内容を改革することです。DX化によって競争上の優位性を確立できます。

「DX」は「デジタルトランスフォーメーション」の略です。「DTでは？」と思った人、鋭いですね。英語の略語慣習で「trans-」「cross」を示す記号として「X」を使います。「交差・変換」を意味する「X」です。なので、DTではなく「DX」なのです。

世の中は急速に変化しています。その変化自体が課題です。日本企業では「2025年の崖」が問題となっています。経済産業省の調べでは、約80%の日本企業がレガシーシステム（古いシステム）を長期間運用しており、メンテナンスコストの増大に頭を抱えています。

みなさんも「AI」を使ったことがありますよね。AI技術を組み込んだシステムこそがDX化の一例です。スマート家電、フードデリバリー、サブスクサービスなどがその代表です。また、多くの企業では、生成AIチャットボットを導入し、顧客対応の効率化や解決率向上を実現しています。これは働き方改革にもつながっています。IT化は業務効率化を目的としていましたが、DX化は企業ごとでオリジナリティを生み、競争力や付加価値を創出します。

③ 最後に

今日の話は少し難しかったかもしれません。「わからなくてもいいや」と思った人、後で後悔しないよう、この冬休みに「DX」について自分なりに理解してください。土岐商生は全員「DXを知っている」と胸を張れるようにしましょう。

課題を見つけ、解決することは生きていく上で大切です。DX化の推進は、世の中の課題解決のために必要なことです。DX化を他人事ではなく、自分事として捉えてほしいものです。

令和8年も 引き続き、大いに学び、考え、楽しんでいきましょう。

土岐商業高等学校 校長